

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0838
施設名	月島聖ルカ保育園
施設所在地	中央区月島4-5-8
法人名	社会福祉法人ひかりの子

1. 活動のテーマ

<テーマ>

既存の何かを超えた新しいカタチ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園では子供の自由で主体的な発想を重視しているため、テーマを「既存の何かを超えた新しいカタチ」に設定。様々な素材・形を利用した専門家による「アート教室」を実施することで、終着点が無い、大人の視点にとらわれない、主体的な自分の内面を表現する時間を持つことができる。

2. 活動スケジュール

・浅羽聡美先生を講師として招待し、5月より順次、0歳児から5歳児クラスで、様々な素材、道具にふれるアート教室を実施。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

アート教室においては、養生シートを床全面に敷く。アクリル絵の具、スチレンボード、針金、ダンボール、Tシャツ、土粘土、紙粘土、ビー玉、ビーズ、釘、ローラー、筆、フォーク、小手、グルーガン、軍手、ダンボールカッター、金槌他

4. 探究活動の実践

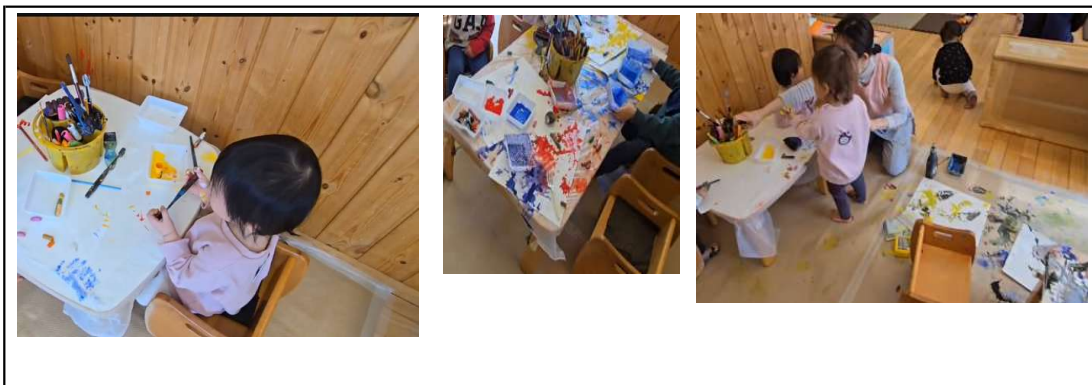
<活動の内容>

毎回違うテーマを持ち、大人の意向・いわゆる正解の形を期待するのではなく、こどもが自由に表現できる配慮をしつつ、材料・道具を十分に用意し、子どもの自由な発想で、一人一人が集中して作品と向き合い、納得するまで作品に向き合い作り上げてもらうことを目指した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

例えば、0歳児クラスの活動では、水で溶いた絵の具や水性色鉛筆、クレヨン、さまざまな筆やローラー、タンポ、ブラシなどを用意し、保育士はあえて道具の正しい使い方は伝えず、子どもたちが自由に素材や道具と関われる環境を整えたところ、以下のような表現や活動が見られた。

- ・ 道具の一つ一つの形状、質感、重さをじっくりと触って観察する
- ・ 初めての色鉛筆を集める、配る、クレヨンを絵の具に浸す。
- ・ 絵の具の小分け用の薄い豆腐容器を握って形を変化させる。
- ・ 絵の具の色の追加を保育士にリクエストし容器の中で混色する。
- ・ 紙の上に絵の具を流す、紙の上に溜まった絵の具を容器でこするように塗り広げる。
- ・ 容器でたたいて絵の具を飛び散らせる。
- ・ 床の養生シートに描く。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

上記のように子どもたちは自分なりの方法で素材を探究し、その過程そのものが子どもたちの豊かな表現であり、この時期に大切なのは「正しい使い方」を教えることではなく、子どもが興味をもったことを安心して試し、自ら発見していく経験だということを改めて実感した。また、他者と比べることなく、自己の表現に没頭する姿があり、無言の状況が多くあった。しかし、互いの行動を認め合いうが、模倣する姿はなく、互いに作品を称賛する姿があった。